

2012年度イタリア短期留学の報告

林 文明・森 光弘・國井伯昭
松浦克至・矢田洋一

1. はじめに

本学では、2000年にイタリア国立フェラーリ工業専門学校（以下「フェラーリ校」と略す）と提携し学生や教職員の交流をはじめ、多彩な活動を続けている。そのひとつとして、学生の交換留学がある。本学からの学生派遣は2003年春休み期間中に第1回を実施して以来、毎年、同時期に本学の学生を派遣している。2009年度からはキャリア科目の授業「海外研修Ⅱ」として行っている。

本稿では、2013年2月に行われたイタリア短期留学について報告する。

2. 経緯

短期留学は、2010年度より海外研修・留学委員会（以下「委員会」と略す）で担当している。以前は専任教員の引率者を同行させることがなかなか叶わなかった。この時期は本学にとって年度末の繁忙期で、二級整備士教育が大詰めの時期であるからである。しかし、委員会では、現地での研修についての現状把握及び問題点、改善点を見出す事とフェラーリ校、研修先との繋がりを深め友好関係を築くため、本学教員の派遣を目指してきた。それは、関係部署との事前調整と各教職員の協力無しに実現できないので、その調整を森委員長が中心に行い、昨年に引き続き実現することが可能になった。

参加学生の募集は、10月に1年クラス担任からクラスゼミで短期留学の募集案内をしてもらうよう依頼した。同時に、各教室・廊下・学生課の窓口・担当教員の準備室入口などにポスターを貼りPRをした。11月に入り12日、13日の両日12:50より留学生センターで説明会を実施したが、参加者が無く今年度の短期留学を見合わせないといけない状況であった。しかし、委員会では、ここで途切れてしまうと、友好関係にも悪影響が及ぶのではないかと考え、各委員が参加の可能性のある学生個々に当たり、1名の参加者を出すことができ、短期留学の実施が出来ることとなった。研修先は、以前からお世話になっているトニー・オート（フェラーリ専門の整備工場）に決定し、1月31日の教授会で研修行程及び研修先、短期留学生1名（大前慶祐）、引率者2名（野田毅氏、委員会委員の林文明）を報告した。

3. 研 修 行 程

イタリア短期留学は、表1に示すように2013年2月8日（金）～3月7日（木）の26泊28日に決定し、行程を進めた。

表1 行程表

	月 日	都市名	交通機関	時間	スケジュール
1	2月8日（金）	セントレア発 ヘルシンキ着 ヘルシンキ発 ミラノ着	フィンエア AY080便 フィンエア AY795便 列車	11:55 15:15 16:05 18:05	空路、中部国際空港からフィンランド航空でヘルシンキを経由してミラノへ。 ミラノマルペンサ空港到着。到着後、列車でミラノ市内へ。 【ミラノ泊】
2	2月9日（土）	ミラノ発 マラネロ着	列車	午前 午後	ミラノから列車でマラネロへ。 レンタカーを借りてホームステイ先へ。 エンツォ・ミュージアム見学 マラネロ周辺を散策 【ホームステイ】
3	2月10日（日）	マラネロ ペローナ ディセンザーノ			研修準備 ペローナ、ディセンザーノを訪問 【ホームステイ】
4 22	2月11日（月） ～3月1日（金）	マラネロ 各都市			3週間、トニーオートでフェラーリ車整備研修 土、日曜日は日帰り又は1泊2日で異文化研修（ピサ、フィレンツェ、モナコ、ニース等訪問） 【ホームステイ】
23	3月2日（土）	マラネロ ミラノ			モンツァサーキット フリータイム 【ホームステイ】
24	3月3日（日）	マラネロ イモラ フェラーラ			イモラ、フェラーラを訪問 【ホームステイ】
25	3月4日（月）	マラネロ			フェラーリ校にて修了式 【ホームステイ】
26	3月5日（火）	マラネロ発 ミラノ着	列車		列車でミラノへ。その後、ミラノを散策 マルペンサ空港へ。 【ミラノマルペンサ空港泊】
27	3月6日（水）	ミラノ発 ヘルシンキ着 ヘルシンキ発	フィンエア AY794便 AY079便	11:25 15:30 17:15	ホテルで朝食後、空港へ。 空路、ミラノからヘルシンキ経由で帰国の途へ
28	3月7日（木）	セントレア着		09:55	中部国際空港到着

4. 研修先での活動

2月8日（金）に中部国際空港（写真1）をフィンランド航空で11:55に飛び立ち、ヘルシンキを経由しマルペンサ空港へ18:30に無事到着した。空港からミラノまでは列車で移動し、ホテルにチェックインしたのが21:00だった。

9日（土）ホテルを9:00に出発し、列車でモデナに向かった（写真2）。到着後、レンタカー（写真3）を借り、カステルノーボに位置するホームステイ先のピエロ氏母親宅に向かい昼食を頂く。昼食後、モデナに位置するエンツォ・ミュージアムの見学をする（写真4、5）。その後、マラネロに移動し散策する。再度ホームステイ先に戻り夕食を頂く。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

10日(日)ホームステイ先を9:00に出発し、ロミオとジュリエットで有名なペローナに向かい、途中マントバにあるアウトレットモールを散策し、12:30に到着する。到着後、15:00まで散策する(写真6)。その後、ディセンザーノにあるカート・コースと練習風景を見学する。

11日(月)この日、日本は祝日だが、研修初日である。研修先はトニーオートで、社長のシルバーノ氏を初めとして、整備は長男のダビデ氏、次男のアンドレア氏、1番長く勤めているエンツォ氏、マルチェロ氏、オビー氏、フェラーリ校の研修生ダニーロ君、ウラジミール君、そして本学の大前君である。研修は12:30~14:00の昼食時間を挟み8:30~18:30である。



写真7

ホームステイ先を朝8:10に出発し、研修先に向かう。昼食後は、坂祝町の議員の方々と一緒にフェラーリ本社工場とミュージアムの見学が可能となったため、そちらを優先し見学した(写真7)。朝から1日中雪が降り続き積雪40cmで、ノーマルタイヤのレンタカーではステイ先に帰ることが出来ず、研修先のマルチェロ氏に送ってもらった。

12日(火)前日の積雪のため、バスでマラネロへ移動することにし、バスの時間を調べ、途中で乗り換えながら研修先に向かったため、到着したのが11:00となった。昼食は、職場交流も含め、研修先のエンツォ氏、マルチェロ氏、オビー氏と私たちを含め6名でマラマオ(エンツォ氏の妹が勤務)に行った(写真8)。昼食後、大前君は研修に、私たちはレンタカー周りに積もった雪を、車が動けるように雪かきをした(写真9)。その後、ニコ元フェラーリ校校長宅を訪問する。



写真8



写真9

13日(水)大前君は通常通り研修(8:30~18:30)。私たちは、2011年に来学のバラッコ先生と交流。その後、2004年に来学のフランチェスコ先生と、フェラーリ校生徒のインターンシップ先の訪問に同行する。サスソーロにある本学レバンテ計画のスポンサーだったRCM社(清掃車製作会社)も訪問する。同市に在住の本年度本学に短期留学で来たジャコモ君、エンリコ君と交流。その後、エンリコ君宅を訪問する。フェラーリ社勤務のクラウディオ氏宅も訪問する。

14日(木)大前君は通常通り研修(8:30~18:30)。私たちは、フェラーリ校でトラデヨ先生と交流。その後、カルピに在住の本年度本学に短期留学できたミハエル君宅を訪問し交流。フェラーリ社勤務でカートショップ経営のステファノ氏宅も訪問する。

15日(金)大前君は研修(8:30~15:00)。私たちは、フェラーリ校で電子制御に関わるテスタを見学させてもらった(写真10)。その後、モデナサーキットを視察及びカロツェリア・ザナシー社を見学。大前君は15:30よりマラネロ市の理髪店で散髪(写真11)。昨年度の研修先であっ

たゴッソリ工場を訪問及び見学。夕食は、セラマツォーニにあるピエロ氏宅に招待される(19:00～22:15) (写真12)。



写真10



写真11



写真12



写真13

16日(土) ホームステイ先を8:00に出発し、ピサに向かい10:30に到着した。到着後、12:30まで散策する(写真13)。その場に、2009年本学に短期留学で来たマテオ君が会いに来てくれ交流することが出来た。散策後、ピサを出発し、フィレンツェに向かい14:30に到着する。到着後、17:30まで散策する(写真14)。散策後、フィレンツェを出発し、カルピに向かい19:30に到着する。夕食は、カルピにあるミハエル君宅に招待される(19:30～22:00) (写真15)。



写真14



写真15

17日(日) ホームステイ先を9:00に出発し、フランチャコルタ・サーキットに向かい、11:00に到着する。到着後、自動車イベントを15:15まで観戦及び見学する。その後、帰路につき、途中フィデンツェにあるアウトレットモールを散策し帰路についた。

18日(月) 大前君は通常通り研修(8:30~18:30)。私たちは、セラマツォーニにあるピエロ氏宅を訪問。今週末に予定しているモノコ、ニース訪問の情報と宿泊先を調査する。その後、マラネロの情報を提供してくれるステファノ氏(キヨスク)及びクラウディオ氏宅を訪問。夕食は、モデナにあるニコ元フェラーリ校校長宅に招待される(19:00~22:15)(写真16)。



写真16

19日(火) 大前君は通常通り研修(8:30~18:30)。私たちは、週末に予定しているモノコ、ニース訪問の情報調査と宿泊予約をする。また、夏に実施している海外研修旅行の候補地を調査するためフェラーラを訪問する。フェラーラの案内所でフェルチオ・ランボルギーニ・ミュージアムの存在を知る(ホームページ等には掲載されていない)。

20日(水) デッセンザーノにあるCRG社(カート製作会社)、マラネロカート社(カート製作会社)を見学するため、ホームステイ先を9:00に出発した。CRG社は世界でも1,2を争うカート社であるが、工場内部を細部まで見学させて頂いた(写真17)。CRG社社長と(写真18)。



写真17



写真18

CRG社のレース部門に、日本人女子カートレーサーの小林由奈さんが桑名から2ヶ月の研修で来ていた。小林さんは、本学MSE学科の山下亮生君を知っていた。マラネロカート社では、イタリアからの短期留学1期生アレキサンドロ君がマネージャーを務めており、もしマラネロカート社での研修を望むならば、受け入れは可能だと言ってくれた(写真19)。見学後、研修旅行の候補地を調査するため、ガルダ湖畔を訪問。夕食は、数年前に短期留学のホームステイを受け入れて下さっていた、モデナにあるカヴァッティ宅に招待される(19:00~22:30)(写真20)。



写真19



写真20

21日（木）大前君は通常通り研修（8：30～18：30）。この日は1日中雪が降り続いていたが、道には雪が積もらなかったため、車の走行に支障はなかった。フェラーリ校、銀行、キヨスク等を訪問。旅行会社に向向き、帰りの列車チケットを手配する。

22日（金）前日からの雪の影響で、研修先にバスを乗り換えて行く予定だったので、バスの時間まで道路の積雪状態を見ていた。しかし、除雪されて大丈夫そうになってきたため、帰りの足も考えて、レンタカーで10：00に研修先へ向かう。大前君は到着後研修（10：15～18：30）。フェラーリ校でフィリップ先生と交流。昼食は、ダニーロ君宅に招待される（写真21）。夕食は、2012年に来学のスピーナ先生に招待される（20：00～22：30）（写真22）。



写真21



写真22

23日（土）前日までの雪が心配されたが、道路には雪がなかったため、予定通りモナコに向けて、ホームステイ先を7：30に出発した。途中、高速道路にも雪はなく、順調に車を進め11：30にサンレモへ到着し散策した。その後、モナコに向かい、15：30に到着しF1コースを散策した（写真23）。散策後、宿泊場所のニースに向かい、19：00に無事ホテルへ到着した。



写真23

運が良いことにニースは、カーニバルを開催していた。大前君もカーニバルに遭遇できてとても満足していた。

24日（日）ホテルを9：15に出発し、野田氏の友人（エールフランス勤務）の方にニースの旧市街地等を案内して頂く（9：00～14：00）。散策後、帰路につき、モデナへ20：45に到着し、中華料理を食べ、ホームステイ先へ22：30に無事到着した。

25日（月）大前君は午前中研修（8：30～12：00）。研修旅行の候補地を調査するため、野田氏にフェラーラ近くのドッソにあるフェルチオ・ランボルギーニ・ミュージアムに電話をかけてもらい、見学の詳細と入場料等を確認してもらった。その結果、入場料金は€13、見学には予約があるということだった。急遽、今日の見学は可能かどうか聞いてもらい、運良く14：00から見学が可能になった為、大前君の研修を午後より見学に切り替えた。大前君は、ランボルギーニにとっても興味を持っており、見学出来たことにかなり満足していた（写真24）。夕食は、サスソロにあるエンリコ君宅に招待される（19：30～22：30）（写真25）。

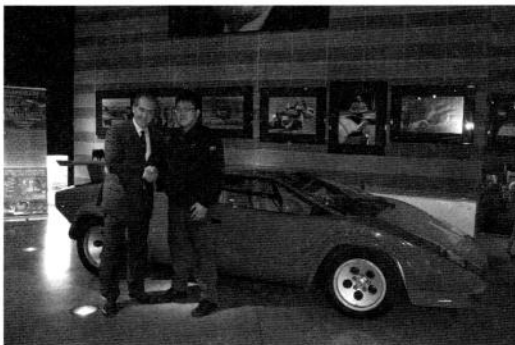


写真24



写真25

26日（火）林は帰国するため、10：30にモデナ駅まで野田氏に送ってもらう。11：46にミラノ行きの列車に乗車する。ミラノで列車を乗り継ぎマルペンサ空港まで行き、空港よりシャトルバスでホテルに向かった。

トニーオートでの研修風景（写真26、27、28、29）。



写真26

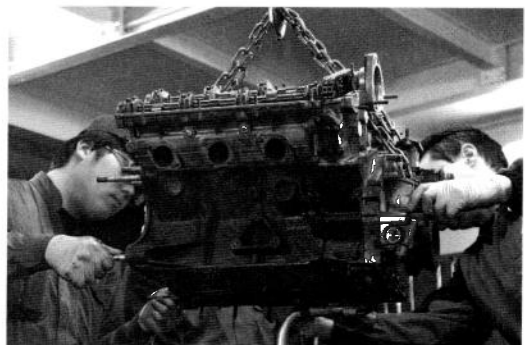


写真27



写真28



写真29

27日（水）ホテルを9：00に出発し、マルペンサ空港で搭乗手続きを済ませ、11：25発のヘルシンキ行きに搭乗し、ヘルシンキを経由して翌朝（28日）9：50に中部国際空港へ無事到着した。

また、その後の活動は、次の通りである。

野田氏より

26日（火）大前君は通常通り研修（8：30～18：30）。2009年本学に短期留学できたピクトリアさんが、フェラーリ校まで会いに来てくれた。現在は結婚され一児の母となられていた。昼食は、研修先のトニーオートに招待される。

27日（水）大前君は午前中研修（8：30～12：30）。午後よりセキュリティが厳しいカロツェリア・ザナシー社の見学が可能となった為、大前君を同行し見学する。その後、サン・ジョルジョ社（鋳物工場）も見学する。夜、フェラーリ社勤務のクラウディオ氏宅を訪問。クラウディオ氏より大前君に、工場で使用する作業服（ポロシャツ、上着）をプレゼントされる。突然の貴重なプレゼントに、大前君は感動していた。

28日（木）大前君は通常通り研修（8：30～18：30）。この日は、入庫していたフェラーリF40のトランスミッションの調子を見るため、研修先の次男アンドレア氏が試運転を行った。その際、大前君に声をかけて頂き同乗することができた。大前君は貴重な体験に感動していた。夕食は、2011年来学のバッラコ先生に招待される（20：00～22：00）。

3月1日（金）研修最終日、大前君は通常通り研修（8：30～18：30）。この日もアンドレア氏に声をかけて頂き、モデナまで納車するテストロッサに同乗させてもらうことができた。大前君は非常に満足していた。夕食は、トニーオートの方々に敬意を表し、本学主催でモデナにある日本料理店に招待した。その後、モデナ市内を散策し、さらにイタリアで初体験となったディスコに行き、地元の若者と交流をした。

2日（土）ホームステイ先を8：30に出発し、ミラノにあるモンツァサーキットへ10：00に到着した。到着後、サーキットの見学と昨年同サーキットで出会い知り合いになった日本車愛好家の若者と合流し、モンツァ郊外を散策、夕食も彼らと一緒にとり交流を深めた（19：30～21：

30)。その後、帰路についた。

3日(日) ホームステイ先を10:00に出発し、トニーオートで研修中のダニーロ君と共にボローニャに向かい11:00に到着した。街並みと露店等を散策した。その後、イモラに向かい、到着後、サーキットの見学と故アイルトンセナのモニュメントを見学した。見学後、フェラーラに向かい、旧市街地を散策した。夕食は、トニーオートのお客さんに招待される。

4日(月) フェラーリ校で10:00より研修修了式が行われ、マルゲリータ校長より修了証書が手渡された。2009年本学に短期留学で来たダビデ君が会いに来てくれた。帰国準備をする。

5日(火) 帰国のため、ホームステイ先を9:00に出発し、モデナのレンタカー会社にレンタカーを返却する。レンタカー会社よりモデナ駅まで、フェラーリ校卒業生のパオロ氏に送ってもらう。その後、列車でミラノに向かい、到着後、イタリアからの短期留学1期生ジャンルカ氏が駅まで来てくれ、荷物を預かってもらい、昼食もご馳走になった。その後、ミラノ市内を散策する。散策後、ミラノから列車でマルペンサ空港まで行き、空港よりシャトルバスでホテルに向かった。

6日(水) ホテルを9:00に出発し、マルペンサ空港で搭乗手続きを済ませ、11:25発のヘルシンキ行きに搭乗し、ヘルシンキを経由して翌朝(7日) 9:50に中部国際空港へ無事到着した。

5. 考 察

今回の短期留学プログラムは、雪等の影響は若干あったが、非常に充実した内容で、特に問題なくスムーズに行うことができた。研修をさせて頂いたトニーオートは、フェラーリをレストアする作業をしているが、非常に古い年代の車や、かなり高価な車を扱っており、他では体験できない貴重な実習をすることができる。そのような作業に関心のある学生には非常に良い研修を提供することができると思う。また、この職場の技術者は、学生を始め教職員を温かく迎え対応してくれた。これは、野田氏が長年にわたり良い人間関係を築いてくれた結果だと感じた。今回は、同時期に坂祝町議員団が友好都市マラネロ市を訪問し、フェラーリ本社工場及びミュージアムを見学された。この見学に私たちも同行することができ、普段は見られない場所を見せてもらうことができた。異国の地で坂祝町の議員団と交流することができた。また、この10年の間にいろいろなホームステイ先にお世話になっているが、今回お世話になった家は、研修場所やその他見学場所への移動等を考えると立地的に非常に良い場所であった。ただし、バス等の公共交通機関を使用するには不便であり、移動にはレンタカーは不可欠だと感じた。運転の際には、イタリアの道路状況や交通規則、習慣を熟知しておかないとレンタカーの運転は難しいと感じた。たとえば、市街地での駐車は、日本と違うシステムで複雑であり、予備知識が必要だ。また、イタリアの交差点は日本と違い、殆どが信号のないロータリーである。レンタカーにはナビがないので地理も把握しておかなければならない。イタリアでの研修は、多くの人に支えられている。野田氏の長年の努力により、研修先の技術者や、提携校のエミリア副校長を始め先生方、自動車関連施設の

方々とも強い関係ができています。さらに、初めてイタリアから本学に来た短期留学生から今年度の留学生まで、長期にわたる良好な関係を築けている。それにより、研修場所の段取りや普通では見られない場所を見学できるなど様々な配慮をしてもらえ、より充実した研修体験や、休日の文化体験が可能になっていると思う。今後このような人間関係を本学として引き継ぎ、築いていくことは大事であり、重要な課題であると考えている。

6. ま と め

今回、長期研修の引率を担当させて頂いたことで、今までの報告だけではわからない詳細な研修状況や人間関係を理解することができた。この内容を今後の海外研修旅行や短期留学の内容、旅程にも生かしていきたいと考える。また、研修の作業の様子や文化体験、イタリア人との交流風景などを写真とビデオに収めたので、それを広報やイタリア研修のPR活動に利用していただきたい。国家試験前の忙しい時期の出張で、多くの皆様に業務調整等ご協力いただいたことに感謝したい。最後に、この短期留学の実施にあたり多大な協力を頂いた関係諸氏、引率の野田氏、イタリア側との調整に尽力してくれた学園本部の蜂須賀氏に深く感謝の意を表したい。

7. 参 考 文 献

- 1) 林文明・藤田英樹・高瀬利恵子・古川竜治・清水勝昭：『イタリア短期交換留学の報告』
「中日本自動車短期大学論叢 第40号」(2010), p.113-119